



## VOL. 45

本日のプログラム	3月20日 (2152回)	次回のプログラム	3月27日
「創業50周年を迎えて」	田中俊夫 会員	「変化から継続へ」	川口榮一 会員

2019年 3月13日(水) 第2例会

～体操～

1. ソング 「春よ来い」

## 2. ビジター紹介

スピーカー(同志社女子大学現代社会学部教授)

日下菜穂子 様

## 3. 出席報告

会員数 50名 出席数 36名

出席率 75.00% 前々回補正 93.47%

## 【本日の欠席】

川口・辻井・藤井(秀)・藤井(輝)・浜田・石本・的場・  
光川・森・小畑・小野・田野島・吉田・兼重 各会員

## 【補填】2/27

川口・浜田・小坂・的場・中井 各会員

## 4. 会食

## 5. 会長の時間

…………… ニコニコ BoX とミリオンダラー ……………

本日はまず来週末予定される「地区大会」の紹介をさせていただきます。

地区大会は、兵庫県内、つまり2680地区として約2000名が集う年間の最大行事でもあります。

今年は特に加古川という地で30年ぶりに開催されるということで、「Inspiration everywhere」というキャッチフレーズの基に力が入っております。

新入会の皆さんの基には直接案内状がガバナーより届いていると思いますが、23日は「新会員交流プラザ」が開かれます。「早くロータリーを知って馴染んでいただきたい」という願いを込めた新機軸ですので、入会歴3年未満の皆さんと共に、是非参加下さるようお願い致します。

24日の本会議の日も、「友愛の広場」という新しい企画が準備されております。滅多にない加古川の名物屋台を楽しみながらステージの歌と踊りに打ち興ずるのも楽しい1日かと思しますので、会員の皆様のごぞつての参加を宜しくお願いいたします。

本題に戻りまして

## 1) ニコニコボックスとは

ニコニコボックスとは、ロータリークラブの全世界で実施されているわけではなく、日本独特の形でありまして、始まりは1935年東京RCが孤児院世話のための資金集めとして、会員から寄付を集めたのが最初とされており、今日のような「ニコニコBox」という名前がついたのは、1936年大阪RCが最初とされております。投入する名目もニコニコに値する会員の慶事、身の回りの出来事や近況披露、お礼や感情表現など様々な理由を付けて、会員が自発的に拠金をするもので他の会員にも共に喜んで貰うという趣旨に変遷したとされています。

外国ではどうかと言いますと、これに類するものとしてFine Box と Chest Box があります。ロータリーが創設されて間もなくの明治38年(1905)第3回例会の時に、欠席、早退者は50セントの罰金を科す規定が採用され、それを自主的に投入する罰金箱(Fine Box)が設けられました。Chest Boxは目的を定めた募金箱ですから、目的を定めずに募金をする日本のニコニコBOXとは異なっていたようです。

その用途は、会員が受益者とならない社会奉仕、国際奉仕委員会及び特定分野の委員会費用であり、主として団体奉仕活動の資金として支出されるものです。

## 2) ミリオンダラーミールとは

ロータリー財団募金の一つで、1960年から61年にかけてロータリーの会員数50万人に達した時期に、米国マサチューセッツ州のロータリーアンである チェスター・



クラップ氏の提案により始まりました。日本では、神戸ロータリークラブが1964年12月17日に始めたのが最初とされております。

例会で、通常の食事と比べて安い食事の日を定め、それによって得られた節約額を積立て、これをロータリー財団、社会奉仕、国際奉仕などの資金に繰り入れるものである。2ドル節約すると当時の50万人のロータリアン全部では100万ドルになるという所から“ミリオンダラーミール”なる名称ができたようです。

実施しているクラブではカレーライスが多いようにも聞き及んでおりますが、中にはおにぎりと同噌汁という所もあるようです。当クラブでもその名前に因んで毎月第三例会時に実施しております。

但し、毎月実施というのは今年度でありまして、回数が少ないときもあれば、全くないという年度もあり、その時々理事会の決定により変化しております。

以前はカレーライスが多かったのですが、昨年から、ホテル側の配慮により、普段と変わらないような形で盛り付けていただいておりますので、ひょっとしてお気づきにならなかった方もいらっしゃるかも知れませんね。

ただ今年は毎月実施しておりますので、「回数が多い」というご批判も伺っておりますが、奉仕事業のための資金作りと言うことでロータリアンの寛容の精神でお許し下さい。

ニコニコBoxについては、拠金の方法もいろいろあるようですが、当クラブではSAAのところまで毎週行っております。

SAAの前を通りにくいなあと思わず、毎週1回は通っていただいてどしどし拠金下さい。宜しく御願いいたします。

## 6. 幹事報告

### 1) 創立記念例会について

5月8日(水)18:00より例会  
18:30より懇親

当日、ソウル城東RCより6名出席予定  
出欠  回覧

### 2) 地区補助金プロジェクト見学訪問の案内

実施クラブ：神戸西RC  
プロジェクト名：こどもふれあいプロジェクト  
実施日：3月15日(金) 詳細は  回覧にて

### 3) 新入会員は親睦委員会に所属

## 7. 委員会報告

なし

## 8. SAA報告

### ニコニコBOX

\*例会、長期欠席致しました、すみません。

..... 萬寿

\* 「 春雨やぬると光る獣道 」

「 西高東低気圧配置の予感かな 」

「 石垣にしがみ付きたる葦草 」

..... 田村

\*所用の為早退させていただきます。

..... 中西

\*本日、所用の為早退させていただきます。

..... 滝口

\*日下様、本日の卓話よろしくお祈いします。

..... 安藤・平野・勇・小坂・越賀・  
久保・松本・中井・中田・西川・  
齊藤・三田・杉浦・高山・武部・  
田中(正)・梅崎・渡部・山中・  
安田

本日の金額 25,000円

累 計 1,669,975円

## 9. スピーチ



「 多世代協調で知を磨く！ AI時代の新しい学び方 」  
スピーカー(同志社女子大学現代社会学部教授)

日下菜穂子 様

## 2018～2019年度 第9回 (3月度) 理事会議事録

開催日時 2019年3月6日(水)

PM 1:40 ~PM 2:40

会場 ホテルヴィスキオ尼崎 2F セーヌ

出席者: 西川・森本・中西・藤井(輝)・小坂・田中(正)・  
安藤・小野・磯田・勇

欠席者: 浜田

記録作成者: 三田

### 「報告事項」

特に無し

### 「協議・審議事項」

#### 1. 創立記念例会の件

5月8日(水) ソウル城東RCより来尼

→案内状を作成し、先方に送付する。

なお、どなた宛てに送付するかは、森本副会長が確認する。

→予算は、例会運営、国際奉仕、両委員会で打ち合わせをしていただく。

→6:00～移動例会 6:30～懇親

→5月の理事会は第3例会終了後

#### 2. 最終例会の件

6月26日(水)

→登録料はとる方向で、金額については要検討。

#### 3. RYLAセミナー参加者の件(青少年奉仕委員会)

受講生参加費用 5万円

→3月末期限で、会員からの推薦があれば審議する。

#### 4. 規定審議会の件

2019年規定審議会制定案に関するアンケート調査

→会員からの反対等意見はなし。

→当クラブは異議なしでアンケート回答する。

#### 5. 寄付金の取り扱い&対外クラブ交際費の件

→次回の理事会にて継続審議を行い、取りまとめ予定。

以上

## 多世代協調で知を磨く！ AI時代の新しい学び方

同志社女子大学現代社会学部教授 日下菜穂子

### 大学生と高齢者でアプリを開発する授業

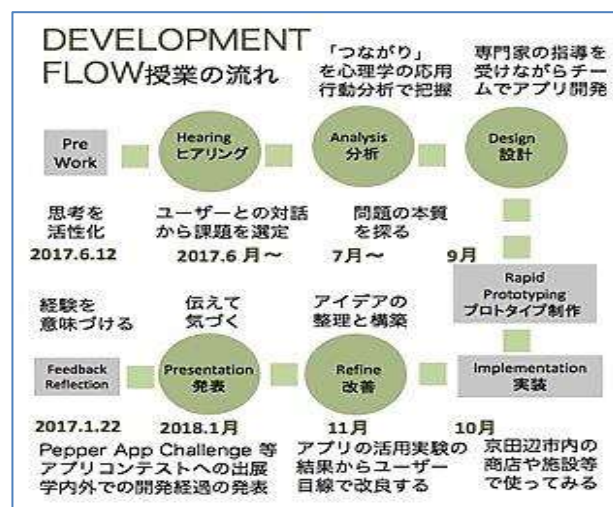
「異なる世代の人たちが協調し、新しい知性を生み出すにはどうすればいいのか？」その疑問から授業がスタートしました。

人工知能(AI)の活用が一般に広まる時代に個人に求められる能力は、主体的に行動する自律性や、知識・情報・技術の運用能力、多様な集団における人間関係形成能力だとされています。この授業(女子大学現代社会学部社会システム習環境として、ソフトバンクロボティクス株式会社が開発したヒト型ロボットのPepper)を授業に導入し、大学生と高齢者としてPepperのアプリ開発を行ったプロセスと成果の概要を次に報告します。



### ロボットへの共同注意で多世代がつながる

授業のテーマは、「高齢社会のコミュニケーションをよくするロボットアプリの開発」です。約6ヶ月の期間で課題設定・企画・立案・実証・開発に取り組み、コンテストへの出展や地域での報告により成果を発表します(図1)。



アプリ開発に関する技術的な学習には、コミュニケーションロボットのアプリ開発に携わる企業の協力を得て、プログラミングのワークショップやAI・IOTに関する講義も行いました。



授業の設計段階で重視したことは、大学生と高齢者が互いに同じ課題を共有して問題解決に協力する仲間となる、コミュニケーションの「3項関係」を築くことでした。授業設計は、大学生と高齢者が集まる場所にロボットアプリ開発という刺激的な課題を組み込むことで、ロボットが共同注意(Joint Attention)の対象となり、異なる世代や立場の人と人との協調関係が深まるという仮説に基づいています



履修生は、女子大学の3年生と4年生の15人です。さらに、京田辺市との連携事業として実施する研究プロジェクト(ワンダフル・エイジング・プロジェクト)に登録されている京田辺市在住の高齢者のうち、65歳から84歳までの8人(男性5人、女性3人)が開発メンバーとして授業に参加されました。

**完成したアプリ：  
問いふるインテリジェンス (Toiful Intelligence:TI)**

文系的女子大学生や高齢者にとって、当初はAIやロボットは未知の世界に近いものでした。また履修者の中には、大学生と高齢者のチームワークに不安を感じた人も少なくありませんでした。こうした「新しいものや、自分とは異なる人と共存していくにはどうすればいいのだろう？」と履修者が何度も話し合ううちに見つけたキーワードは、「関心」と「共感」でした。まず積極的な関心を寄せること、そして相手を理解していきいきと関わりあうには「多くの言葉よりも、一つの問いかけ」が重要だという結論が見いだされました。そこで、開発するアプリには「問いかけ」のスキルを磨く機能をプログラミングすることになりました。

開発したアプリの名称は「問いふるインテリジェンス」です。



問いふるインテリジェンス活用風景

現代人の典型的な悩み(認知の歪み)を複数のキャラクターで表現・登録し、「問いかけ」と「共感」で、キャラクターの悩みを解決していくというものです。「問いかけ」に対するキャラクターの回答として、京舞の家元で人間国宝の井上八千代さんにインタビューさせていただく等で、実存する人とのやり取りに近づくリアリティーを追求した内容がアプリに登録されています。アプリでのロボットとの会話にはMicrosoftのQnA Makerを活用し、問いの回答をAIとして学習する仕組みを導入しています。またG10ry社の顔認証を利用した声かけの実現や、クリエイティブオルカ社が開発するIOTプラットフォームを利用し、問いかけをする部屋の照明や映像の制御を行う設定になっています。

**授業の成果について**

授業の成果は、大学生と高齢者を対象とした授業参加前後のアンケート調査と、授業時間中の行動観察から検証しています。アンケート調査は、ICTリテラシー、社会スキル、時間展望(過去・現在・未来への態度)、心理的ウェルビーイング等の項目で構成されています。現在分析中ですが、アンケート調査の結果からは、大学生においては社会スキルの向上か、高齢者においては過去・現在・未来への態度のポジティブな変化が認められています。大学生と高齢者に共通する変化は、未来への不安が減少していたことです。参加の感想として高齢者からは、新しいテクノロジーへの親しみや、若い人の能力への信頼感が多く語られました。大学生に多かったのは、苦勞を乗り越えられた体験に関する感情でした。一般にはユーザーとして位置づけられがちな高齢者や文系女子大学生が「自らか主体となって協力すれば、新しい知識を生むことかできる」と感じた体験を通して、自分や他者と未来への信頼を高められたのではないかと考えています。

この授業の取り組みは

ウェブサイトの動画で紹介しています。

[http://s-gakkai.sakura.ne.jp/HP\\_kusaka/top.html](http://s-gakkai.sakura.ne.jp/HP_kusaka/top.html)